

ロボコンを超えたロボ魂

御船中のロボコンは、「技道日本一」を目指したロボ魂へと学びが広がってきています。これも、町、教育委員会、ロボコンを応援する会、地域の方など、皆さまの支援のたまものと感謝しています。今後も御船中への絶大なる支援をお願いします。



御船中学校
大塚 芳生 先生

豊かな創造性と発想力

ロボコンに取り組む生徒たちの姿はいつも輝いていました。私はその姿に胸をうたれ、生徒たちよりも夢中になっていた時があったのかもしれませんが、一緒に最適解を求め取り組む中で、生徒たちの創造性や発想力にはいつも驚かされました。



御船中学校
原 順一 先生

ロボコンで地域を応援

子ども達は、物作り、あいさつ、協力の大切さをロボコン製作から大会を通して、学び成長しました。こうした経験も、地域、町商工会、町内企業から多くの支援と応援があったからです。これから生徒と保護者で協力し合い、町内イベントへ参加しながら、応援できればと思います。



保護者
清水 次人 さん
(滝 尾)



写真上／プレゼンテーションで、ロボット製作をモニター映像で説明する「ロボハート」。生徒が掲げるロボ魂の横断幕は、ロボコンを応援する会から同中に贈られたもの
写真右／応用部門の競技で、回収したボールを板への確に並べる「チームトラスト」
(御船中学校提供)



新たな次のスタートへ

ロボコンをはじめ、大会ごとに成長を続けて、全国の大舞台で一人ひとりがチームのために全力を尽くした御船中の生徒23人。大会を終えた今の心境を5人のチームリーダーは次のように語ります。
「ロボハート」の飯田素弘

くんは、「準ロボコン大賞を受賞できたのは先生や保護者の支えがあったから。本当に感謝しています。高校へ進学後も、ロボコンを続けて頑張ります」と深い感謝の気持ちを胸に、高校生活でのロボコン挑戦を誓います。
「チームトラスト」の清水龍成くん(3年)は、「競技成績はベスト16でしたが、自分達の力を出せて悔いはありません」と充実感漂う表情で話します。
「継魂」の江原圭祐くん

「以心伝心」の野口圭くん(2年)は、「4月から3年。今まで先輩に教えてもらったことを今度は自分達が下級生に伝えていきたいです。来年は『ロボコン大賞』(文部科学大臣奨励賞)を獲れるように頑張ります」と全国制覇を目標に瞳を輝かせました。
ロボコンとの出会い、それは、仲間との協力、達成感、感謝の気持ち、そして新たな目標を自分自身で考えるための時間だったのかもしれない。一人ひとりが新たな思いを胸に、明日へのスタートがはじまろうとしています。



前列左から、山下亁くん、飯田素弘くん、川部竜誠くん、栗嶋孝一くん、鎌田純平くん、以上「ロボハート」。江本健留くん、藤田朗史くん、吉住亜里紗さん、寺野翔くん、佐藤一志くん、以上「スイッチ」。
後列左から、谷口竜星くん、江原圭祐くん、三浦好稀くん、灰塚慎くん、以上「継魂」。清水龍成くん、眞中孝矢くん、佐本真くん、富田一宇くん、市原大士くん、以上「チームトラスト」。野口圭くん、森友規くん、村上大周くん、岩上佳史くん、以上「以心伝心」。

発想や技術の評価導入

第10回全国中学生創造アイデアロボットコンテスト大会は、全国7ブロックを勝ち抜いた92チームが出場。御船中からは、史上最多5チーム23人が出場しました。

競技は、ロボットを操作する授業内部門と応用部門、そしてロボットのパフォーマンス映像を紹介する映像部門の3部門。さらに今大会から、ロボットの製作映像を紹介するプレゼンテーションが導入。これまでの競技成績を重視した大会から一転、生徒の発想や製作技術を総合評価とする方法が新たに採用されました。

大会1日目から好発進

大会1日目は、部門ごとに得点やタイムを争う競技。そこで好発進をきったのは、応用部門の「ロボハート」と、授業内部門の「スイッチ」。「普段どおりの力を出せました」と振り返る「スイッチ」でリーダーの吉住亜里紗さん(2年)。その言葉どおり、予選リーグを難なく突破。準決勝では惜しくも共に敗れたも

御船中「ロボハート」が厚生労働大臣賞を受賞

技道の集大成 燃えたロボ魂

創造アイデアロボットコンテスト大会が1月23、24の両日、東京都の千寿桜堤中学校で開催。九州沖縄地区代表として出場した御船中学校(高野隆校長、524人)の「ロボハート」が厚生労働大臣賞(準ロボコン大賞)を見事受賞しました。今号では、全国大会の模様を振り返りながら、出場チームのインタビューを交えてお伝えします。

の二チーム揃って堂々の3位入賞。また上位入賞こそ手が届きませんでした。が、ベスト16に進出した「以心伝心」と、「チームトラスト」の活躍も光り大会初日を終わります。
勝負の大会2日目
大会2日目は、ロボットの製作過程や工夫を映像で紹介するプレゼンテーション。

「見る人に分かりやすい(映像製作を)工夫しました」と話す「ロボハート」でリーダーの飯田素弘くん(3年)。その簡潔な映像と自由な発想、高い編集技術は審査でも高く評価されます。その結果、全体で2位となる厚生労働大臣賞に見事選ばれました。さらに、「スイッチ」が全体の7位に相当する全国中学校産業教育教材振興協会長賞を受